

受水槽を活用した飲料水の確保

災害用地下給水タンクと緊急給水栓のどちらもない地域防災拠点については、配水池から至近距離にあるので、配水池における給水となります。しかし、発災後の道路状況によっては、配水池に行けない場合も考えられます。このため、該当校の受水槽に簡易な給水栓を取り付け、飲料水を確保するものです。



1 受水槽用蛇口一式

防災備蓄庫の中の「受水槽用蛇口一式」と記載された袋を使用します。



2 袋に入っている資機材



① ホース



② 蛇口スタンド



③ 残留塩素測定試薬



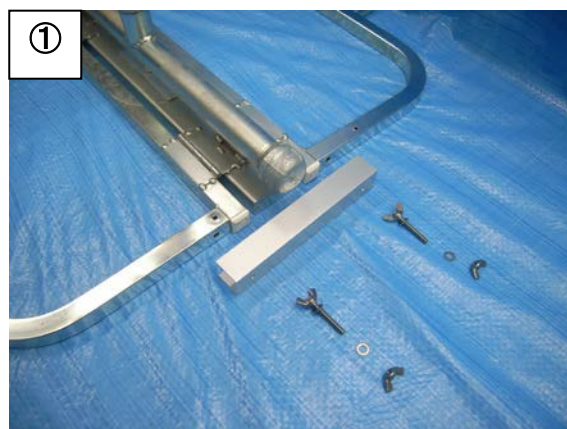
④ ハンドル
※メスねじ式のみ

3 注意事項など

- ① **【最重要】** 試薬の中に水を入れても反応がない（透明なまま）場合は、絶対に飲み水として使用しないこと。（飲み水以外の雑用水として使用することは可能。）
- ② 手などが触れてしまった水を試薬の中に注入すると、汚れに反応して正しい反応が出なくなるため、必ず水に手などを触れないように注入すること。
- ③ 時間が経つと徐々に色が濃くなってしまい、正しい結果が得られなくなるため、試薬に水を入れてから必ず1分以内の反応を見ること。
- ④ 蛇口から水の出方が悪くなってきたときは、取り付けたものをすべて取り外し、排水口から直接水を出す。
（それでも水が出ない場合、受水槽の中の水がなくなった可能性が高いので、使用をやめる。）
- ⑤ 使用後はバルブを必ず閉めること。また、可能な限り、蛇口スタンドとホースを干して乾燥させてから備蓄庫に保管する。
（水分が残っていると、カビやサビの原因になるので要注意。）
- ⑥ 使用後は、蛇口はきつく締めず、少し緩めた状態で保管すること。
（きつく締めたまま保管すると、中のゴムパッキンが固まり、蛇口が回らなくなるので要注意。）

4 蛇口スタンドの組立て

① 蝶ネジ2つと留め金をはずす。

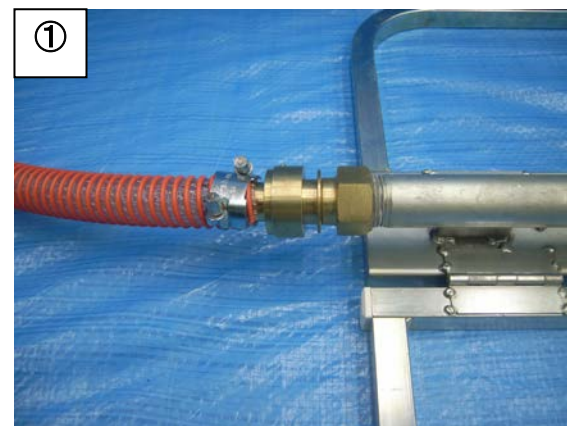


② 足になる部分を地面と平行になるように開き、留め金と一緒に再び蝶ねじを締める。



5 ホースの取り付け

① ホースの口が狭くなっている側を、蛇口スタンド下部の口に差し込む。



- ② ホースの反対側（広がっている側）を、受水槽の排水口に差し込む。
 ※ ホースは正しく接続できると「カチッ」と音が出る。
 反対では取付不可。



6 水を出す

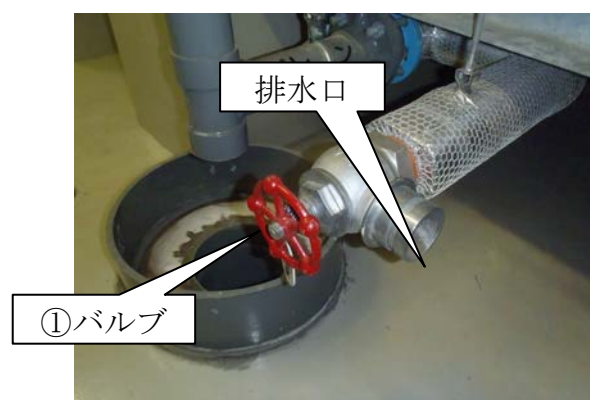
【メスねじ式】

- ① ハンドルを使ってバルブを開く。



【町野式】

- ① バルブを開く。

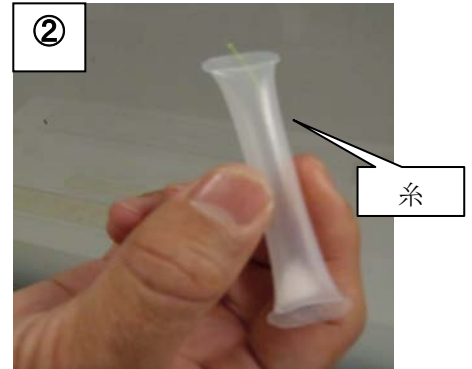


- ② 蛇口を全開にして水を出す。
 ※ 蛇口をひねってすぐはゴミや、汚れた水が出ることもある。

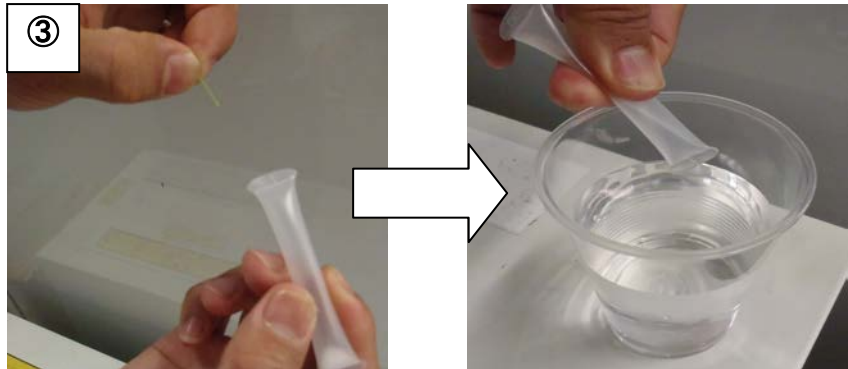


7 【重要】残留塩素の確認

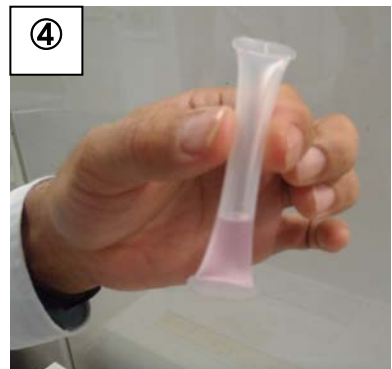
- ① 見た目でキレイな水が出るようになってから1分以上、水を出す。
- ② スポイト状の残留塩素測定試薬（以下、試薬という）を箱から1つ取り出す。



- ③ 試薬の先端の糸を引き抜いて、軽くつまんで中の空気を追い出し、試薬の中に水を入れる。



- ④ 試薬に水を入れたら軽く振りまぜ、試薬の中の水の色の変化を確認する。



- ⑤ 試薬に水を入れ軽く振り混ぜて10秒後、色が薄くてもピンク色に反応すれば、飲み水として使用可能。



